

「虹彩」

2024 年制作 100×100 cm 絹本着色・顔料・染料・裏箔（銀箔）

多分こういう経験は誰もがしているのではないのでしょうか。水面に写る木々の影と澄んだ空のコントラストを見つめていた次の瞬間、影の奥に視線が誘われて水底にある落ち葉や小石に焦点が合うような感覚。そして（影の中の）梢に視線を移していくと、広がる水底の世界。あたかも瞳孔が開くような不思議な感覚、あのささやかな喜びを絵にできないものだろうかと思っていました。光の反射と透き通るような水の表現は、絹本なら可能では、と取り組んでみました。

よく瞳孔（中心の黒目）が開くといいますが、実は瞳孔のまわりの虹彩（黒目のまわりの茶目）という筋肉が伸び縮みをして光の量をコントロールしているため、瞳孔の大きさが変化するようにです。このように眼の働きによって生じるであろう水面と水底を行き来するような感覚、「コウサイ」という言葉の響きも心地よく、タイトルとして拝借することにしました。